

【用語】納辻一年貢米高の合計 正米納―現物の米で納めること 石代納―石代金納ともいい、米を金に換算して上納すること 陳屋―陣屋、ここでは小幡町にある松平家の陣屋のこと 郷藏詰―年貢を納入するまで一時的に村内の備荒貯穀用の藏に保管すること 困糶―緊急備荒や米価下落などに備え、城内や村々の郷藏などに粃穀を蓄えること 下高田村―甘楽郡妙義町

【解説】小幡藩松平家の所領である甘楽郡下高田村は、天保期には村高一七〇〇石余で、村内は西組と東組に分かれていた。この文書は、天保四年（一八三三）下高田村のうち西組から小幡藩役人あてに出された天保三年分の年貢米改め書上であり、これによつて小幡藩領の村々からの年貢米の具体的な納入手続の一端がうかがえる。

この年、西組の年貢米高は総計五三三俵余であったが、このなかから、まず小幡陣屋で当面必要とする米一二六俵分を十一月下旬に現物の米と貨幣で納入している。そして、残り四〇七俵分は取りあえず村内の郷藏に納めていたが、天保三年十二月から翌四年六月にかけて処理された。その支払いの内訳によれば、小幡陣屋へ計四二俵が三回に分けて納入され、さらに約三一〇俵分が吉井・藤岡・小幡町などの商人への払い米となり、差し引き米四九俵となっている。ただ、小幡藩松平氏は入封時から財政状況が逼迫しており、この頃、藩の支出経費を削減するため様々な財政改革が実施されていた。したがって、この商人へ支払われた年貢米の多くも、おそらく藩の借財返済分の一部としてあてられた可能性が高いと思われる。